

豊鑠 かくしゃく、年をとつても元気で丈夫なこと

心鍼 心を込めた鍼灸

熟鍼 熟達した鍼灸

良鍼 身体に良い鍼灸

錬鍼 手練を重ねた鍼灸

地のたましいを魄という(唯南子)。魂は陽で魄は陰を表す

魂魄 こんぱく、たましい、火との魂は雲気となつて浮遊する(左伝)

仏心(ほとけこころ)に冬の陽光よ 熱き魂魄へ 輝け

悲しみ多き病人を 心鍼(しんしん)とりて癒さんと

懐かし学び所へと 静まりかえる故郷(ふるさと)よ

四 白梅(しらうめ)そよぐ北野坂 豊鑠(かくしゃく)歩む老人(としより)が

優しい心に秋の陽光よ 熱き魂魄へ 輝け

巡(めぐ)り病の病人を 熟鍼(うればり)とりて癒さんと

確(かく)たる歩み登り切る 再(ふたた)び逢(あ)える歓(よろこ)びよ

三 菊の香(か)薫(かお)る北野坂 誇りに満(み)てる壮年(ますらお)が

強き力に夏の陽光よ 熱き魂魄へ 輝け

病苦(やまい)に嘆く病人を 良鍼(よきはり)とりて癒さんと

汗水流して駆け登る 楽しい友よ同胞(はらから)よ

二 新緑(しんりよく)映(は)ゆる北野坂 希望に燃える青年(わかもの)が

淡き希(のぞ)みに春の陽光(ひ)よ 熱き魂魄(たましい)へ 輝け

痛みにあえぐ病人(やまうど)を 練鍼(ねりばり)とりて癒さんと

早足急ぐ学舎(や)に 明るく響く笑い声

一 桜花(さくらばな)咲く北野坂 夢を抱きし若人(わかうど)が

作詞 伊東 宏

# 熱き魂魄(たましい)へ輝け